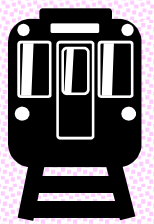


東六線駅・北剣淵駅



令和3年3月ダイヤ改正をもって役目を終える

65年の駅の歴史に幕を閉じる

東六線駅（東町）は、昭和31年（1956年）から仮乗降場として開設され、昭和34年（1959年）無人駅として開駅しました。

また、北剣淵駅（藤本町）も同じく、昭和34年（1959年）11月に仮乗降所として開設され、昭和62年（1987年）に駅となりました。

この東六線駅、北剣淵駅は、地元住民の設置運動によって設置されました。

しかし、時代が移り変わるにつれ、宗谷本線は年々利用者が減少していくこととなり、昭和50年と平成30年利用者数を比較すると、旭川3名寄間は4分の1、名寄3稚内間では6分の1まで減少し、東六線駅の1日の平均利用者数が1名、北剣淵駅については、1日の平均利用者数が0.2名まで減少しています。宗谷本線は利用者数の低迷により収入の減少や、維持管理経費の増

大によって年間約53億円もの赤字が生じています。

このことから、平成28年11月JR北海道は、宗谷本線の名寄3稚内間が、「単独では維持困難な線区」に該当することを発表しました。

これを受け、宗谷本線活性化推進協議会が設立され、宗谷本線沿線の自治体への協力が求められ、JR北海道から各地域へ「利用が少ない無人駅（3人以下ノ日）の廃止」について検討を進めたい旨の提案がありました。

この提案を受け、剣淵町で該当となる東六線駅、北剣淵駅の存続・廃止を検討することとなりました。

昨年4月に開催されたJR北海道旭川支社による住民説明会では、この駅を今後維持していくための維持経費が東六線駅で年間約70万円、北剣淵駅は年間約110万円が必要となり、JR北海道からは、この費用を自治体で負担が可能な場

合は、駅の存続できると提案されました。

しかし、剣淵町では今後の駅が利用状況と維持・存続に係る町の負担を総合的に判断したなかで、住民説明会を経て廃止はやむを得ないものとし同意しました。

これにより、令和3年3月のダイヤ改正をもって廃止が決定されました。



東六線駅待合室（東町）



北剣淵駅（藤本町）

お別れセレモニーを開催予定

東六線駅及び北剣淵駅は、令和3年3月13日（土）ダイヤ改正をもって役目を終えます。

剣淵町では、駅が利用できる最終日となる令和3年3月12日（金）にお別れセレモニーの開催を予定しています。

詳しい内容につきましては、改めてホームページや町内回覧などでご案内いたしますので、そちらでご確認ください。